

<プロフィール>

矢澤 定明（やざわ さだあき）



東京藝術大学卒業。パリ留学を経てトランペット奏者および指揮者として活動を開始。指揮を佐渡裕、高階正光、三澤洋史の諸氏に師事。歌劇「カルメン」でプロ指揮者としてデビュー。

これまでに日本フィル、東フィル、ロイヤルチェンバー、日本センチュリー響、大阪響、兵庫芸文センター管、名古屋フィル、九響、奈良フィル、新国立劇場合唱団、ひょうごプロデュースオペラ合唱団、神戸市混声合唱団、シエナ・ウインド、大阪市音、ブリッツフィル、広島ウインド等を指揮。

Bunkamura20周年記念N響特別演奏会「第九」、大阪城ホール「一万人の第九」で合唱指揮および副指揮を、2012年にはイタリア・トリノ王立歌劇場の「カルメン」公演（佐渡裕指揮）で副指揮者を務める。新国立劇場では2000年より10年間、兵庫県立芸文センターでは2005年より現在まで

数々のオペラ公演（'06年「蝶々夫人」、'07年「魔笛」、'08年「メリー・ウィドウ」、'09年「カルメン」、'10年「キャンディード」、'11年「こうもり」、'12年「トスカ」、'13年「セビリヤの理髪師」、'14年「コジ・ファン・トゥッテ」、'15年「椿姫」、'16年「夏の夜の夢」、'17年「フィガロの結婚」、'18年「魔弾の射手」で副指揮および合唱指揮、'19年「オン・ザ・タウン」、'23年「ドン・ジョヴァンニ」で合唱指揮）に携わる。

東京の第一生命ホールにて、オペラプロジェクトとして2009年「フィガロの結婚」、2010年「ドン・ジョヴァンニ」、2011年「コジ・ファン・トゥッテ」、2013年「セビリヤの理髪師」をプロデュース、中規模コンサート専用ホールでの本格的オペラ企画として注目を集める。2014年オペラ「カルメン」（神戸文化ホール）、2015年オペラ「ドン・ジョヴァンニ」（新国立劇場）、名古屋二期会創立45周年記念新作オペラ「宗春」（愛知県芸術劇場）、2016年オペラ de 神戸「蝶々夫人」（神戸文化ホール）、2017年オペラ「オテロ」（新国立劇場）、神戸市混声合唱団定期演奏会（神戸文化ホール）、紀南文化会館オペラ「カルメン」、2018年「銀河鉄道999 シンフォニック・コンサート」（サントリーホール）を指揮。2023年は東京国際フォーラム ホールCで5月「シラノ・ド・ベルジュラック」、10月「アンドレア・シェニエ」を指揮。2024年7月、兵庫県立芸術文化センターの佐渡裕プロデュースオペラ「蝶々夫人」でも合唱指揮を務める。

管弦楽曲、オペラ、合唱、吹奏楽、またクラシック作品のみならずポピュラー、ジャズ、映画音楽などのジャンルまで幅広いレパートリーで、演奏会、音楽イベント、レコーディング等で活躍。国内ではもとより海外の音楽家・音楽団体とも厚い信頼関係を築くとともに、その豊かな音楽性と実力で各方面から高い評価を得ている。全国各地の文化事業でも丁寧で愛情溢れる指導で成功に導いている。2013年度より愛知県立芸術大学非常勤講師として後進の指導にもあたり、愛知県立芸術大学オペラ「こどもと魔法」（'13）、「シンデレラ」（'14）、「コジ・ファン・トゥッテ」（'15）、「皇帝ティートの慈悲」（'16）、「ヘンゼルとグレーテル」（'17）、「シンデレラ」（'18）を指揮し高い評価を得た。CDでは「ウルトラマン・オン・ブラス1, 2」（日本クラウン）、「読売ジャイアンツ応援歌 2009」（ユニバーサルミュージック）、映画「ウルトラマンゼロ サウンドトラック」（エイベックス）、楽譜監修に「吹奏楽／ウルトラマン・オン・ブラス」（ドレミ出版）がある。

愛知県立芸術大学ウインドオーケストラ指揮者。和歌山フィルハーモニー管弦楽団ミュージックアドバイザー。

矢澤定明ホームページ：<http://sadaaki-yazawa.com/>